

3月24日のウクライナ情報

安齋育郎

(1)露モスクワ銃乱射 拘束の男、約 80 万円の報酬を約束された(日テレ NEWS NNN、2024年3月23日)

ロシアのコンサート会場で起きた銃乱射事件で、当局は容疑者 11 人を拘束したと発表しました。現地メディアが公開した尋問の様子とされる映像の中で、容疑者の一人は、およそ 80 万円の報酬を約束されたと話しました。

【画像】モスクワ銃乱射 死者 133 人に 容疑者 11 人を拘束



22 日夜、事件が起きたときのコンサート会場の映像では、銃声が鳴り響き、観客らが悲鳴を上げながら逃げる様子が映っています。

逃げる人々「落ち着け、落ち着け」「ゆっくり上へ、ゆっくり出て！」

ロシアメディアによりますと、ロックバンドの公演が始まる前に、迷彩服を着た数人の男が侵入して、観客に向けて銃を乱射し、爆発物を投げるなどして大規模な火災も発生しました。

ロシア当局は、これまでに 133 人の死亡を確認したと明らかにするとともに、実行犯 4 人を含む 11 人を拘束したと発表しています。

ロシアメディアが公開した容疑者への尋問の様子を撮影したとされる映像では、拘束された男は調べに対し、50 万ルーブル、日本円でおおよそ 80 万円を約束され、人々を殺したという趣旨の話をしていて、テレグラムというメッセージアプリで指示を受けたと話したということです。

この事件をめぐっては、過激派組織「イスラム国」が犯行声明を出していますが、「イスラム国」系の通信社は 23 日、事件の実行犯だとする 4 人の写真を新たに公開しました。

一方で、プーチン大統領は事件を受けてメッセージを発表し、「血なまぐさい野蛮なテロ攻撃だ」と非難した上で、ウクライナの関与を示唆しました。

プーチン大統領「彼ら(容疑者ら)は逃亡を図り、ウクライナに向かっていった。ウクライナ側には国境を越えるための窓口が用意されていた」

一方、ウクライナ側は関与を否定していて、国防省は 22 日の SNS への投稿で「事件はプーチン大

統領の指示を受けたロシアの特殊部隊によるもので、ウクライナに対するさらなる攻撃を正当化するための挑発だ」と主張しています。

<https://news.yahoo.co.jp/articles/d7832d0a7026830c1c465420f0b55bc11e588850>

(2)これがテロリストのリーダーだ(2024年3月23日)

何語なんだろう。ウクライナ語かな。しかし、自爆や自殺するわけでもなく 11 人も捕まっている。使用後のマガジン(連発銃の弾倉)を拾う係までいた。それで証拠隠滅のつもりか。逃亡できると思ってたのか。一人 50 万ルーブルとかで雇われた素人集団だ。ぼろぼろしゃべっているし。背後関係はすぐに突き止められるだろう。

<https://twitter.com/i/status/1771495990572290333>



<https://twitter.com/yasushi61/status/1771524915155591622?s=09>

(3)連帯？ どの口が言う(2024年3月24日)

ブリンケン「米国は昨日モスクワで発生したテロ攻撃を強く非難する。犠牲者のご家族と愛する方々、そしてこの凶悪犯罪に巻き込まれた全ての人々に深い哀悼の意を表します。我々はあらゆる形態のテロを非難しロシアの人々と連帯し、この出来事の結果として失われた人命を悼む」



<https://twitter.com/tobimono2/status/1771619321397031302?s=09>

(4)東野篤子氏の見解(2024年3月24日)

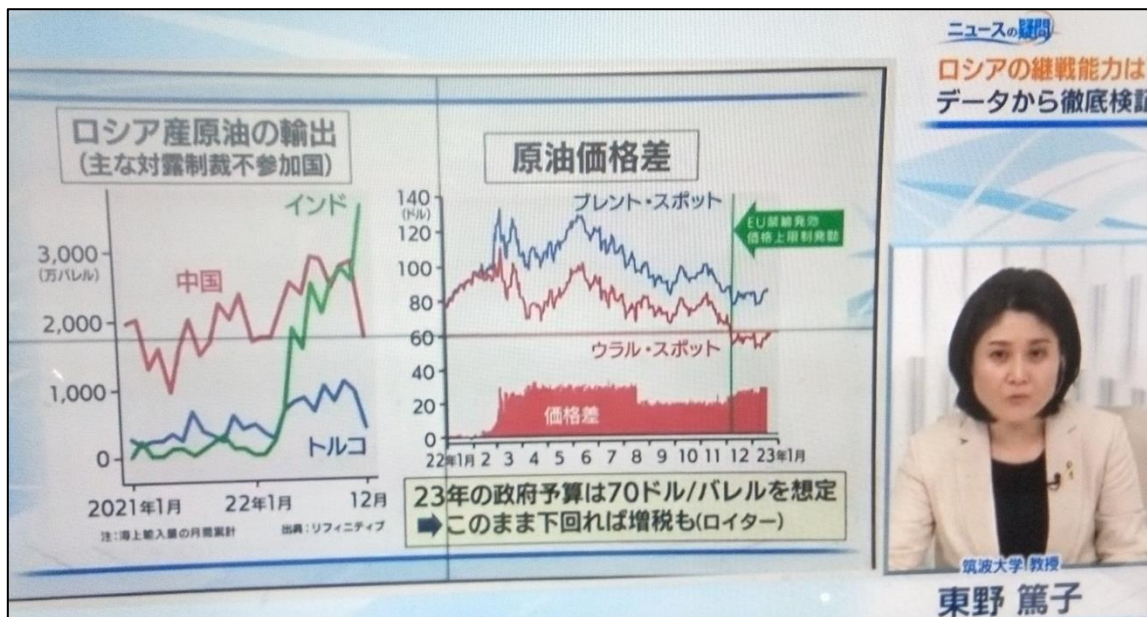
親ウクライナ派の国際政治学者 東野篤子氏は、2023年1月31日「石油価格の上限設定によって、制裁の効き方は遅かったがこれからロシア経済は苦境の度合いが加速していく」と語っていた。

ロシアの経常収支は29.6兆円という過去最高の黒字をたたき出した。

東野篤子氏は、「一年間を振り返ると、経済制裁は思ったほどの効果はなかったのは事実」「エネルギー価格が制裁の影響で高騰してしまった」と語った。

※投稿者コメント:2022年の経済制裁の予想は間違っていた事実を認めたが、そろそろ2023年についても総括すべきではないでしょうか

<https://twitter.com/i/status/1620933704150564865>



<https://twitter.com/kakuyokusyugi/status/1764272041442832656?s=09>

(5)ハラルド・クジャット退役将軍によるウクライナ戦争と地政学的変化に関するベルリンでの講演(2024年2月27日)

ミュンヘン安全保障会議(MSC)が始まる直前、元ドイツ連邦軍監察總監で NATO 軍事委員会委員長のハラルド・クジャット氏が、「ウクライナ戦争、列強の対立、ヨーロッパの自己主張」というテーマで講演を行い、非常に多くの参加者が集まった。この招待状は、その自己紹介によると、「ユーラシア諸国間の平和的共存と協力関係」に取り組んでいるシンクタンク「ユーラシア協会」によって発行されました。NachDenkSeiten がそこにて、講演を撮影しました。編集者による。

ウクライナ戦争における現在の軍事状況の包括的な分析に加えて、クジャットは可能な解決策に講演を捧げ、西側-大西洋横断の地平線を超えて、多極的な世界秩序への現在の変化と、この変化に適応できないヨーロッパのエリートの現在の無力を分析します。

「戦争を望んでいる人もいれば、戦争を防ぎたくない人もいます。そして、戦争を防げない人たちがいます。これで、誰がどのカテゴリに属するかを選択できます。」

これは、NATO 軍事委員会の元委員長であるハラルド・クジャット退役将軍が、11 月 5 日に公開された金融資本分析の専門ポータル HKCM で公開されたインタビューで、ウクライナでの戦争が巨額の損失にもかかわらず続いている理由を要約する方法です。クジャットは、とりわけ、ドイツ軍の監察官でした。

対談者である HKCM の共同マネージングディレクターであるフィリップ・ホップは、近年一方的になっている一方的な報道と、反対の声が現れたときのしばしば敏感な反応に言及しています。彼は「平和のために立ち上がるという機敏さを持っていた政治家が、今や完全にエスカレートしていると同時に、それが実際に何を意味するのかを評価することができる背景知識を持っていない」と批判しています。

政治ではなく狂信

かつてドイツの最高位の軍人だったクジャットは、「政治の世界には、能力不足から、また無知から、前回の政権交代以来、この政策を追求してきた人々がいるという事実」に問題を見ている。彼は、ウクライナでの戦争に対する政治や社会の一部の反応や態度に驚かなかった。むしろ、彼はこの展開に失望した。「何よりも、この政策が、右も左も見ずに、まばたきをして、追求されている狂信主義」。彼の見解では、この政策は自国民の幸福を考慮に入れておらず、この戦争に苦しむウクライナ国民への影響を無視しています。これら全ては、ウクライナが勝たねばならないという文章で飾られている。「これは政治ではない。それが狂信だ」

元将軍によると、これは「我々が歴史から学び、この経験に基づいてここ数十年の外交・安全保障政策に適用してきた」すべてのものを船外に投げ捨てるものだという。この政策は無責任だ、とクジャットは言う。

彼は、ウクライナでの戦争は防げたはずだと確信している。彼は、2021 年 12 月 17 日にロシア政府が米国と NATO に宛てた「非常に大規模で、非常に要求の厳しい」文書を思い出す。要するに、ロシアの視点からすれば、平和を脅かすような展開への対応が問題だったのだ。クジャット氏によると、西側諸国や一部の NATO 諸国は、それについて話す準備ができていなかったという。「もしそうしていれば、少なくとも戦争を防ごうとしていたはずだ」それすらも、必要な真剣さを持って行われていなかった、と彼は批判する。

望ましくない平和

戦争は 6 週間後には終わっていたかもしれないとクジャットは続け、2022 年 4 月初旬にトルコ大統領が開始した交渉は「非常に良い結果を達成した」と指摘した。しかし、西側からの圧力により条約は調印されなかった。これがすべての展開の起源であり、その後のウクライナ側での多くの死だけでなく、国の破壊でもあると、在任中に NATO ウクライナ委員会の委員長も務めたクジャットは言う。

現時点では、ウクライナの天候関連の泥沼時代が始まっているため、2 人の対戦相手を交渉のテーブルに着かせる別のチャンスがあるとクジャットは説明しています。その結果、現在、戦争は減速しており、おそらく 12 月初旬まで機械化部隊に介入することはできないでしょう。「しかし、これに関する決定はキエフでなされるのではなく、ワシントンでなされねばならない。彼の視点から見ると、ウクライナのウォロディミル・ゼレンスキー大統領が 2022 年 10 月初旬に彼自身と彼の政府がロシアとの交渉を禁止する法令を発行して以来、拒否は常に西側から、部分的にはウクライナからも来ていることは間違いありません。

一方、ロシアのウラジーミル・プーチン大統領は、いつでも交渉する用意があると何度か発言している。例えば、6月17日、アフリカの和平代表団がロシアを訪問した際、彼はまた、公正な交渉を行い、双方の安全保障上の利益を認める意思のある誰とでも、いつでも交渉する用意があると述べた。

この戦争は軍事紛争であるだけでなく、情報戦争でもあると、クジャットはインタビューで強調している - だからこそ、多くの報道が反対か、まったく報道されないかのどちらかだ - そして経済戦争でもある。「この情報戦では、多くの最前線の戦闘員が塹壕に座り込み、自分たちが望んでいることを報告しているが、それは彼らが描いているものとは違う」

元ドイツ連邦軍監察総監は、この状況全体について最も恐ろしいのは、「私たちは開かれた多元的な社会に住んでおり、民主主義国家であることを誇りに思っており、私たちを他の人々と区別する価値観を支持している」と述べている。しかし、「それで、私たちは何をしますか？私たちは、憲法の平和の要求を無視しています。政治家は憲法に全く関心がない。私たちは表現の自由の権利を無視しています。残念なことに、私たちは過去にこの表現の抑圧を経験しなければならなかったし、それは私たちにとって良いことではなかったし、今回の場合も私たちにとって良いことではないでしょう。

状況についての「多くのナンセンス」

また、ウクライナの攻勢については「多くのナンセンス」が言われていると、クジャット氏は述べた。攻撃の目的は、ロシアとウクライナの間陸橋を壊すこと、つまり港湾都市マリウポリまで前進することでした。クリミアは事実上、ロシア軍の兵站拠点だ。したがって、彼の視点から見ると、ウクライナ人は物資の供給を遮断し、「ロシア軍を枯渇させ」、ウクライナに有利な戦略的転換を達成したかったのです。「まあ、そんなことは起こらなかったし、これからも起こらないだろう」

北大西洋条約機構(NATO)のイエンス・ストルテンベルグ事務総長は少し前に、ウクライナ軍は毎日100メートルを奪還すると述べた。マリウポリまでは86キロあるので、ウクライナが目的地に着くまでに860日かかる。これは、クジャットのコメントによれば、どれだけ「ナンセンスなことが言われているか」を示している。

ウクライナの参謀総長、ヴァレリー・ザルジニーは、ワシントン・ポスト紙とのインタビューで、1平方メートルごとに大量の血が流れていると述べたとされている。ウクライナ軍の損失は、特にこの攻勢では法外なものだとクジャットは強調する。一方、ロシア軍は戦略的な防御を行うことを決定しました。彼によると、彼らの目標は、どんな犠牲を払っても領土を保持することではなく、ウクライナ軍を破壊することだという。彼はクラウゼヴィッツの原則を引用し、「相手を無防備にすれば、他のすべては事実上自ずとやってくる」と述べている。

クジャットはさらに、ロシア軍が数日間反攻について話し合っており、後方にかなりの兵力を集結させているという事実を注意を喚起している。350,000人の男性について話しています。これは前進を示しているにすぎません。退役した将軍は、「ロシア人の目標は何か？」と自問自答する。彼は、彼らが以前の征服、つまりドネツク州とルハンスク州の旧行政境界線だけでなく、プーチン大統領が昨年9月30日にロシアの領土と宣言したザポリージャ州とヘルソン州も強化しようとする想定しています。

ロシアはオデッサを歴史的に重要な都市と見なしているため、オデッサも占領しようとするだろうと彼は考えている。クジャットは、モスクワが「我々は特別軍事作戦の目標を達成した」と言う可能性が高いと考えている。彼の視点からすれば、決定的な問題は、その時、西側諸国はどう振る舞うのか、と

ということだ。彼は戦争を続けたいのだろうか、それともこの機会をつかんで戦争を終わらせたいのだろうか？

戦争の新たな局面

クジャット氏によると、ウクライナ軍は極めて危機的な状態にあるという。この攻撃は、長い間、西側諸国から高く評価されてきたが、彼の見解では失敗に終わっている。「その点についてはっきり言わなければなりません」現在、戦争の新たな局面が出現しており、ウクライナは宇宙の深海でロシアを攻撃しようとしている、とクジャットは続けた。クジャット氏は、ロシアへの無人機攻撃後の今年 7 月のゼレンスキー大統領の言葉を引用し、「徐々に、戦争はロシアの領土、つまりロシアの象徴的な中心地や軍事基地に戻りつつある」と述べた。

クジャット氏は、戦争はより高いレベルのエスカレーションに引き上げられるだろうと述べ、これが「ウクライナが西側の兵器システムに従うよう西側の兵士に要求する前の」最終段階であるという印象を持っていると述べた。結局のところ、兵器システムはウクライナ軍の人員の損失を補うことはできない、と元 NATO 将軍は言う。

ドイツは、この新たな局面において特別な役割を担っています。ウクライナは「トールス」(ドイツの空対地巡航ミサイル)などのシステムを保有している場合にのみ、この段階を開始できる。アメリカは、これまでのところ、そのような兵器システムの供給を拒否している。彼は、ジョセフ・バイデン米大統領が言ったことを思い出します。第三次世界大戦は避けたいのです」一方、ドイツでは、この「牡牛座」をめぐる議論がいまだに続いています。元将軍によると、これは連邦共和国にとって非常に重要な進展です。

クジャットはまた、ウクライナの脱走兵の数の多さと貯水池の少なさについても語っている。「だって、逃げ道を買うことができるんだもん。6,000 ドルから 10,000 ドルの間、男性は兵役を免除され、海外に行きます。一方、ゼレンスキー氏は後始末を試み、国防相と 6 人の副官は解任されたと付け加えた。

効果的なロシア軍

ドイツ連邦軍の元監察官によると、戦争開始当初、最初の 2、3 週間でロシア軍の損失は大きかった。「軍人なら誰でも知っているように、防御側は攻撃側よりも常に死傷者が少ない」ため、その間に彼らは小さくなった。さらに、ロシアは戦場の完全な航空主権を持っています。彼は、ロシアの攻撃ヘリコプターの使用は非常に効果的であると考えています。さらに、クジャット氏によると、ロシア軍は最先端の指揮統制情報システム、つまり偵察システムと行動システム、つまり兵器システムとの間の優れたネットワークを持っている。このネットワークにより、ほぼ瞬時に対応することができます。これは、彼の視点からすると、ロシアの戦争を非常に効果的なものになっている。

彼は第三の点を強調する:10 月までは、それはまだ運動の戦争であった。それからロシアの優位性は、彼らが諸兵科連合の戦闘、すなわち様々な兵器システムの相互作用に優れていたという事実によって特徴付けられました。これは、長期間のトレーニングを必要とするスキルです。現在、ロシア軍は戦争前よりもはるかに強力です。

「非常に近代的で、非常に強力な軍隊です」

ウクライナの旅団は、海外で、主にドイツで訓練を受け、西側の兵器システムを操作し、習得するよう教えられた。しかし、その間、彼らは諸兵科連合と戦う能力を学ぶことができなかったでしょう。クジャ

ットによれば、これは彼らに要求することはできない。これもまた、ウクライナの損失がロシアの損失に比べて法外であるという事実につながっていると彼は指摘する。

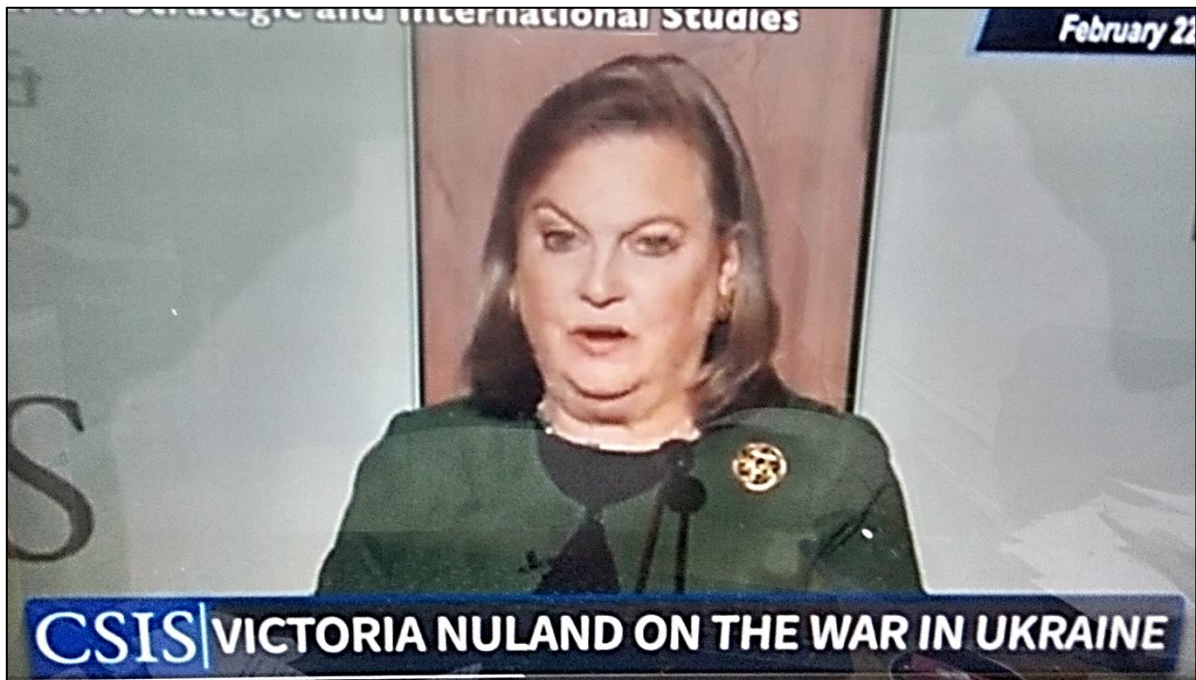
彼は、また、「ウクライナ戦争はゼレンスキーにとって勝ち目がなく、EUのエスカレーションは依然として危険である」とも言った。



<https://www.youtube.com/watch?v=1eWV8mMm86M>

(6)2022年2月22日のヴィクトリア・ヌーランドの弁(2024年3月23日)

戦略国際問題研究所にてビクトリア・ヌーランドは、ウクライナに対し「最も効果的だった非対称戦争の加速」を許可すると約束し、プーチン大統領は「必ず厄介なサプライズに直面することになるだろう」と語っていた。



<https://twitter.com/kakuyokusyugi/status/1771480591898173750?s=09>

(7)モスクワ近郊のクロッカス市庁舎コンサートホールにて ISIS がテロを起こしたと のことですが(2024年3月23日)

※投稿者コメント:AP 通信が以前報道した「ドネツク地方で ISIS のワッペンを付けたウクライナの
部隊指揮官」の映像が頭をよぎりますね。

<https://twitter.com/i/status/1771477552822890522>



<https://twitter.com/kakuyokusyugi/status/1771477552822890522?s=09>

(8)【全文】プーチン大統領「テロリストを全員処罰する」 モスクワ銃撃で国民に呼び かけ(2024年3月24日)

ロシアの #プーチン 大統領は 23 日、モスクワのコンサートホールで起こった銃撃 #テロ を受
け、国民向けメッセージを発表。犠牲者への哀悼の意を示すとともに、テロに関与した全員を処罰する
と強調した。

<https://twitter.com/i/status/1771564423938818276>



https://twitter.com/sputnik_jp/status/1771564423938818276?s=09